



# こんぴらさん障壁画の謎

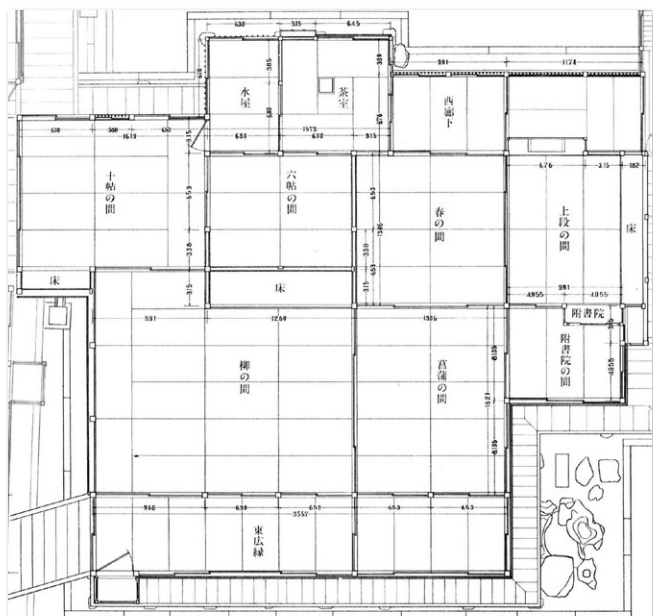
—若冲・岸岱をめぐって—

## 【第2章】

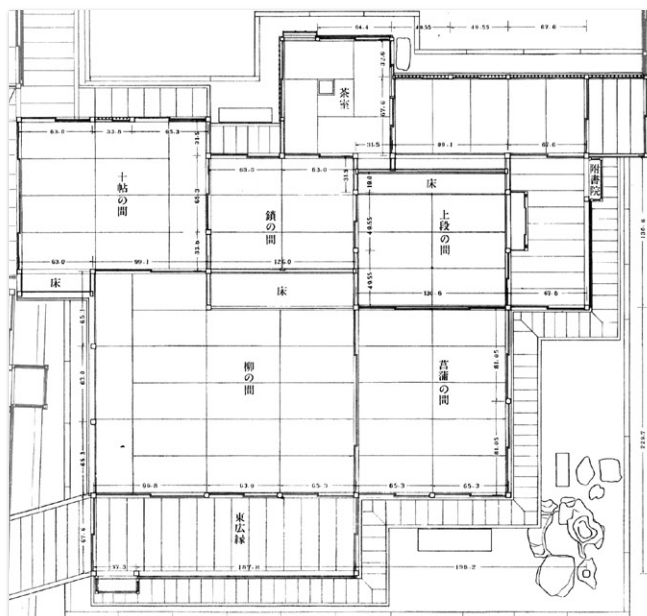
# 奥書院の障壁画

奥書院は文書では御書院とも称され、享保2年(1717)に増改築され現在の規模になったとする説が有力である。各室の図様から二の間に春の間、三の間に菖蒲の間、広間を柳の間とも呼ぶ。建立

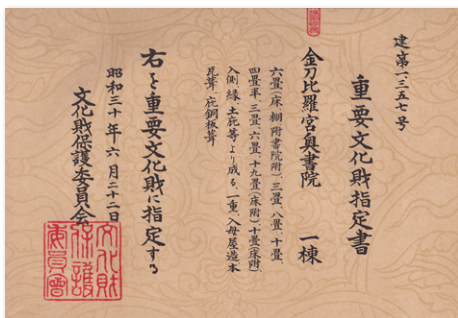
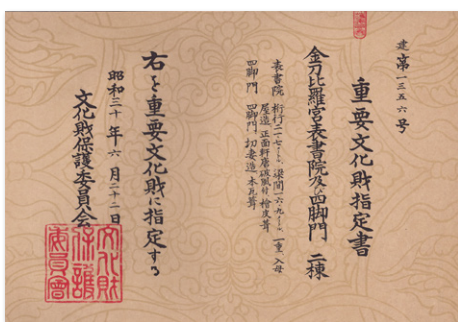
当時は、現在の上段の間は広縁で、春の間が上段の間であったことが分かっている<sup>1</sup>。昭和30年(1955)6月22日に表書院・奥書院は重要文化財に指定された。



【奥書院修理工事報告書】より第1図竣工平面図



【奥書院修理工事報告書】より第27図復原平面図





現在見られる奥書院の障壁画は以下の通りである。

上段の間

《百花図》伊藤若冲 明和元年(1764) 紙本着色金砂子撒

《水墨山水図小襖》「直信」印 江戸時代 紙本墨画

《水墨山水図小襖》中川馬嶺 天保15年(1844) 紙本墨画

《花卉図》伝中川馬嶺 江戸時代 紙本着色金砂子撒

春の間

《春野稚松図》《水辺草花図》岸岱 天保15年(1844) 紙本金地着色

菖蒲の間

《水辺花鳥図》《沢瀉図》《群蝶図》岸岱 天保15年(1844) 紙本金地着色

柳の間

《水辺柳樹白鷺図》《岩石図》岸岱 天保15年(1844) 紙本金地着色

東廊下

《瀧鷺図・白椿飛鳥図杉戸絵》近藤有芳 天保15年(1844) 板絵着色

西廊下

《菘に鹿図》近藤有芳 天保15年(1844) 紙本着色金砂子撒

また、《陵王図・桜樹太鼓図衝立》岸岱 天保15年(1844)

紙本金地着色の衝立一基が奥書院十帖の間に置かれており、これも含め言い表す場合は障屏画と呼ぶ。



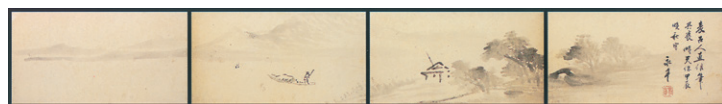
上段の間 西側



上段の間 東側



水墨山水図小襖「直信」印 (上段の間西側 床の間天袋)



水墨山水図小襖 中川馬嶺 (水墨山水図小襖「直信」印の裏)



花卉図 伝中川馬嶺 (上段の間東側 障子腰貼付)



柳の間



菖蒲の間



春の間





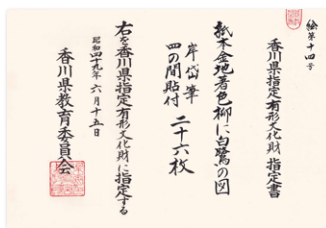
白椿飛鳥図杉戸絵 近藤有芳



陵王図・桜樹太鼓図衝立 岸岱



明治24年(1891)7月9日、臨時全国宝物取調局より岸岱の障壁画に「右優等ニシテ美術上ニ要用ナルモノ認定ス」という鑑査状が発行された。昭和49年(1974)6月15日、伊藤若冲、岸岱の障壁画が香川県指定有形文化財に指定された。



1 ①『奥書院修理工事報告書』p.12

2 ②土居次義『障壁画』pp.6-11 障壁画は障子絵(襖(戸襖も含む)板でつくった襖障子の片面に紙を貼ったもの)・杉戸(含む)と壁貼付絵の総称であり、障屏画は障壁画だけでなく調度の一具である屏風絵や衝立絵も含む総称である。

参考文献

- ①『重要文化財金刀比羅宮奥書院修理工事報告書』金刀比羅宮奥書院修理委員会、1960
- ②土居次義『障壁画』至文堂、1966